



# オクソン 倶楽部



1993年 初 春 号

常磐津の発生は約二五十年程になります。がそれまでの推移は三百年程以前に京都に都太夫一中という浄瑠璃語りがありまして一中節を広めました。この人の弟子の宮古路豊後掾という名手が一七三〇年に江戸に下り豊後節を語り大変人気を博しました。その人の髪型から長羽織まで流行するありさまでそんな人気を妬んだ者達の策謀とも云われていますが、豊後節の影響で中心が増えたとか煽情的だとか非難が多く奉行所から禁止されやむなく連中は京都へ戻りました。その中のひとり宮古路文字太夫は再び江戸へ下り常磐津文字太夫と名乗り一つの流派を建てたのが初まりです。こうして常磐津節は江戸に根付き歌舞伎で荒事から道中に至るまで伴奏音楽として用いられたので大いに発展し町家の子



女は挙って常磐津を習った程でした。次に語り手としては明治の名人林中の名が現代に至るまで喧伝されています。この人は一時六代目常磐津小文字太夫として家元を継いでいましたが養家と不仲になり父の故郷盛岡で隠遁生活をしていました。しかし芸の修業は怠らず九代目市川團十郎に迎えられる東京の歌舞伎に返り咲き持ち前の美声と語りのリズムの微妙さに見物客は魅了されたそうです。この林中の妻女が私

料として私も大切に保存しています。常磐津節は義太夫、清元と同様浄瑠璃(物語性のあるもの)です。流儀を目で見分ける法は三味線の糸巻の白の黒の中棹が清元と常磐津。義太夫は太棹です。聞き分け方は伸び縮みが多くフェルマータが多いのが清元。語りの部分が多い上江戸で育った音楽なので歯切れの良いのが常磐津です。外国人に聞き分け方を問われたある財界人が「長唄はイギリス、清元はフ

文化財認定式後、赤坂御所に上りました折、天皇、皇后両陛下、皇太子殿下、紀宮内親王殿下に三味線の構造、材質についてご説明申し上げましたが皆様非常に熱心にお聴き下さり嬉しくございました。私は昭和二十三年頃より十年程、肺結核、腰椎カリエス、肋骨カリエス等患い続けましたが幸にも完治し三十才を越してから再び古典の演奏活動を始め、それと共に創作も手がけ三百余りの作品を発表しました。常磐津とい

## 常磐津あれこれ

常磐津文字兵衛



の祖父の叔母なので私共とは縁戚にあたりません。その頃日本でもようやくレコードが出来るようになりアメリカから技師を招きラップ型(ビクターのマークの犬が聴いている)のマイク兼スピーカーにくっついて太夫は語り、祖父二代目文字兵衛もまた林中にびったりついて三味線を弾き録音したそうです。このレコードは雑音の多いものですが名人をしのぶ貴重な資

ランス、常磐津はドイツ」と答えられた。まさに云い得て妙です。強いて云えば私はドイツよりオーストリアの方が感じかなとも思います。三味線には猫の皮がいてと云うのはバイオリンの板の構造と同じ原理で、中央の部分が厚く周囲が薄くなっているの硬い部分で絃の振動を吸収し、軟い部分で増幅し共鳴させる、それで艶のあるいい音が出ます。先般無形

うジャンルを超え多くの流儀の方達に手伝っていただき乍ら現代人によく解る「語り物音楽」を作曲、日本の音をオーケストラ・シジョンして日本の音楽を高めて行くのが私の使命と思っております。西鶴三百年祭に因みオクソンコンサートで坪内逍遙先生作詞、祖父二代目文字兵衛作曲の常磐津「お夏狂乱」を六夜演奏されること、思っております。

### 四代目

### 常磐津文字兵衛

- 昭和二年一月十五日 三代目文字兵衛次男として出生
- 昭和七年六月六日 常磐津の稽古始める
- 昭和十六年 英八郎を名乗る
- 昭和三十四年十一月 芸術祭奨励賞受賞、後数度受賞
- 昭和三十五年 四代目文字兵衛襲名
- 昭和五十一年 モービル音楽賞受賞

平成元年五月

紫綬褒章受賞

平成四年五月十五日

重要無形文化財保持者に認定される

(人間国宝に認定)

### 謹賀新年

お正月は、1月5日  
から平常通り  
営業いたします

店主